

民タリト雖凡必スシモ臣民籍ニ伴フテ享有スヘキ權利ト看做スコト能ハス或ル場合ニ於テハ臣民ナラサルモノ即チ内國ニ居住スル外國人タリトモ此ノ如キ權利ヲ享有シ得ヘキナリ故ニ公權ナルモノハ臣民タルノ資格ニ伴フノ特權トナスヘカラス唯法律上ニ特定シテ一定ノ權利義務ヲ認メ公權ト名ケタルトキニ於テハ主權者ニ對シテ其權力ヲ濫用シテ臣民ノ權利ヲ侵害セサル自由ノ區域タルヲ指示シタルモノニ過キスシテ殊更ニ臣民タレハトテ其格ヲ備フレハ之ニ伴フテ其權利ヲ有スルトノ謂ニアラス又法律ヲ以テ臣民ニ賦與シタル處ノ權利ハ法律ヲ以テ之ヲ奪フトモ敢テ不都合ナキ以上ハ臣民ノ權利ハ主權者ニ對スルノ權利ト稱スヘカラス何トナレハ前ニモ論シタルカ如ク臣民ハ主權者ニ對シテ服從者ノ地位ヲ占メ加之臣民トハ主權者ニ對シテ完全ナル服從義務ヲ負フ者ニシテ主權

者ニ對シ權力者ノ地位ニ立ツコト能ハサルモノナレハナリ然レ一タヒ法律ヲ以テ臣民ニ賦與シタル處ノ權利ヲ數々法律ヲ變更シテ以テ臣民ノ權利ヲ侵害スルノミナラス甚ダシキニ至リテハ主權者自己ノ權力ヲ濫用シテ臣民ノ權利ヲ剝奪スルコトアリ此ノ如クナレハ社會ノ公益ヲ害スルコト甚ダシク臣民各自ノ利益ヲ確定保護スルノ目的ニ反シ國家ノ基礎ヲ危フスルモノニシテ一國ノ君主タル者ニシテ自ラ其國ヲ亡滅セシムルモノト云ヘシ以上ハ幾分カ論理上ノ推測タルヲ免カル、能ハスシテ實際ニ就テ觀察スルトキハ國家的生存必要上ニ主權者ハ其權力ヲ濫用シテ法律ヲ變更シ以テ臣民ノ權利ヲ侵害シ若クハ剝奪スルコトヲ得サルナリ故ニ臣民ハ主權者ニ對シテ權利ヲ主張スルコトヲ得サルモ之ヲ嚴格ニ解釋シテ臣民ノ權利タレハトテ恒ニ主權者ノ爲メニ蹂躪サルモノナリトノ謂ニ

公權又ハ人権ヲ憲法ニ規定スル所以

アラサルナリ
以上論述シタルカ如キ理由アルヲ以テ公權又ハ人権グルノドレヒテ憲法ニ掲クルハ不當ナリトス何トナレハ臣民ノ權利所謂公權又ハ人権ナルモノハ臣民タルノ分限ニ伴フテ有シ得ヘキノ權利ニアラス又主權者ニ對シテ主張シ得ルノ權利ニモアラサレハナリ然ラハ何ソ敢テ特別ニ臣民ノ權利義務等ノ名稱ヲ掲ケ之ヲ列記スルノ必要アランヤ之レ畢竟行政官ニ對シ主權者カ行政處分ノ方向ヲ指示スルノ規定ト云フヘシ行政官カ臣民ニ臨ミ處分スルニ當リテ主權者ノ意ヲ奉体メ臣民ノ自由ヲ侵害セサル様注意セサルヘカラス主權者カ行政處分ノ方針ヲ示ス所以實ニ茲ニアリ我帝國憲法第二章ノ主意ハ臣民ノ權利義務ヲ確定保護スルニアリ此章ニ依リテ新タニ臣民ノ權利義務ヲ創定セルモノニアラス臣民ノ權利義務ヲ保護スル手

段ハ行政處分ニシテ臣民ノ自由ヲ侵害スル事項ハ法律ヲ以テ之ヲ拘束スルノ主意ニ外ナラス此章ニ規定スル處ハ法律ヲ以テ行政官ヲ拘束セシモノニシテ直接ニ行政官ニ對スルノ命令ナリ故ニ此命令ノ反照トシテ臣民カ權利義務ノ保護ヲ受クルノ理ナリ行政官カ漫リニ臣民ノ自由ヲ侵害スルコトヲ得サル所以ハ臣民ニ權利アリテ其權利カ能ク行政官ヲ拘束スルニアラスシテ則チ法律ノ許サ、ル所ナルカ故ニ行政官ハ臣民ノ自由ヲ侵スコトヲ得ス若シ行政官カ其制限ヲ超越シタルトキハ法律ヲ破リタルモノニシテ直接ニ主權者ニ對シテハ背法ノ處分トナリ職務上ノ責任ヲ負ヒ間接ノ結果トシテハ臣民ノ權利ヲ害シ賠償ノ責メニ任セサルヘカラス行政官カ臣民ニ對シテ法律上ノ義務ヲ盡スハ臣民ト行政官ノ間ニ權利義務ノ關係アルカ故ニアラスシテ單ニ法律ノ結果ナリ法律上臣民ニ向テ處

分スルノ規定ヲ行政官ニ與ヘタルモノナレハ其規定ニ反シテ行政官カ處分セル場合ニハ固ヨリ臣民ニ對シテ其責メニ任セサルヘカラス之レ臣民ト行政官ノ間ニ特別ニ權利義務ノ關係アルニアラスシテ法律規定ヨリ生スルノ結果ト云フ所以ナリ此憲法ノ法理ハ法律ヲ重クシテ行政處分ニ制限ヲ與ヘタルモノニシテ法律ヲシテ行政處分ニ對シ充分ナル効力ヲ有セシムルニアリ此章ニ掲グル處ハ行政官ニ對シテ其原則ヲ與ヘ臣民ニ對シテ處分ヲ爲ス場合ニ其原則ニ準據セシムルヲ規定シ又一方ニ於テハ臣民ノ權利義務ヲ確定保護スル爲メニ法律ヲ制定シ臣民ノ福利ヲ増進セシムルニ在リテ法理上直チニ之ニ依リテ臣民ニ權利ヲ賦與スルモノナリトノ見解ヲ下スコト能ハス何トナレハ此章ノ原則ニ基キ法律ヲ制定シ然ル後始メテ臣民各自ノ福利ヲ確定保護シ而シテ權利義務ヲ臣民カ有スル

三百五十三

ヲ得ヘケレハナリ故ニ此章ハ臣民ノ福利ヲ確定保護シ權利義務ヲ創定スルノ法律ニ對シ準スヘキ原則ヲ指示セリ此章ノ規定アリテ而シテ後臣民ノ權利義務ヲ創定スルノ法律生シ此法律アリテ而シテ後臣民ハ權利義務ヲ有スルコトヲ得福利ヲ確定保護サル、所以ナリ而シテ日本臣民ノ權利義務ト稱スヘキハ同章第十八條以下ヲ見テ知ルヘシ第二十二條以下ハ臣民ノ權利自由ヲ保證シタルモノナリ權利義務ヲ有セシムルノ規定ヲ與ヘタル事ニ於テハ一ナリ而シテ今此條以下ヲ説明スルコト甚タ難シ何トナレハ茲ニ規定スル事ハ直接ニ行政法ノ材料ヲ組成スル故ニアラス又此規定カ直ニ國家行政諸官府ノ組織ヲ作ス規律ニアラス臣民ノ權利義務ヲ創定シタル標準ニモアラスシテ立法ノ方法ヲ以テ此條以下ニ掲載シタル事項ニ對シテ一個人ノ自由ヲ保護スル規則ヲ制定シ臣民ノ權利義務ヲ確

定保護スルノ原則ヲ指示シ之ニ隨從スル結果トシテ若シ行政官カ其法律以外ニ出テ、之ヲ犯シタル時ハ之ヲ違法ノ處分トシテ訴訟ヲ起シ其處分ヲ取消シ若クハ損害賠償ノ手續ノ規定ナケレハ一個人ノ權利確立セサルヲ以テナリ一個人ノ權利カ違法處分ノ爲メニ毀損サレタル場合ニ之ヲ保護救済スルノ途立タサルトキハ法文上臣民ノ權利自由ヲ保證スルモ其實ヲ舉クルコト能ハサルヲ以テナリ第二十二條以下ハ立法及ヒ行政ニ關シテ大原則ヲ定メタルモノニシテ直接ニ此處ニ於テ我輩臣民ハ斯ク々々ノ權利義務ヲ得タリトノ法理ヲ説クコト能ハス之レ第二十二條以下立法ノ本意ナリトスル處ナリ又普國ノ憲法ニ依レハ凡ソ左ニ列記スルカ如キモノヲ名ケテ公權(グルンドレヒテ)ト稱ス

第一、法律上平等ナル取扱ヲ享ル事 法律ノ前ニ各人平等ニ

三百五十四
三百五十五

普國憲法ノ規定スル公權ノ種類

法律ハ其効力ノ臣民各自ニ平等均一ナルヲ望ム

取扱ハル、トノコトヲ行政處分ニ對スルノ規定トナスモ實際價值ヲ有ゼサル法律ニシテ普魯西ノ現行法ハ明カニ此原則ニ背戾セリ我帝國憲法ニハ之ヲ掲載セス抑モ國民ハ國權ニ對シテ完全ナル服從義務ヲ有シ國家ノ法規ヲ遵奉スヘキモノタリ法規ハ國民ニ對シテ主權ノ脅迫力ヲ假リテ臣民ノ行爲ヲ拮束シ各人平等ニ其効力ヲ適用スルモノタリ行政官ハ此法規ニ準據シテ臣民ニ臨ミ政務ヲ執行シ行政處分ヲ爲スモノタリ臣民各自ニ對シテ法力ノ平等均一ナルヲ望ムハ各國ノ政体上法理上ニ於テ認ムル處ナレトモ實際社會組織ノ現況ヲ察スレハ國民智識ノ差門地階級貴賤貧富ノ別アリテ法力ノ及フ處ハ各人ニ對シテ平等均一ナルコト能ハス法文上ノ均一平等ナルコトヲ認ムレトモ法力適用上ノ均一平等ナルコトハ得テ望ムヘカラサルナリ然レトモ之レ或ハ社會ノ秩序整然トシテ紊

レス主權者臣民ノ別貴賤貧富ノ別判然相隔離スルアリテ以テ
 國家生存ノ基礎ヲ固ウシ却テ臣民ノ安寧幸福ヲ増進スル所以
 ナルガ故ニ文法上形式上ノ平等均一ナルコトヲ規定スルモ其
 効力上實質上ノ平等均一ナルコトヲ望ムヘカラサルナリ臣民
 各自一様ニ法律ノ効力ヲ感スルコト能ハス之レ實際行政官ト
 シテ臣民ニ臨ミテ處分ヲ爲ス場合ニ顧慮スヘキ處ニシテ此原
 則ヲ適用シテ法律ノ効力ヲシテ均一平等ナラシムルハ到底實
 際望ムヘカラサルナリ蓋シ各人カ法律上平等ナル取扱ヲ享ク
 ルコトハ實際行ハレサルコトニシテ普魯西憲法ノ規定ハ實際
 無用ニ屬シ我帝國憲法ニ之ヲ掲載セサルヲ以テ至當トナス

第二、人身ノ自由 一己人ヲ拘留スルトハ形式上ノ留置ヲ繼
 續スルコトニシテ責罰及ヒ責罰者ノ姓名ヲ一定ニ指示セル裁
 判官ノ發セル命令書ノミニ依リテ執行サルヘキモノナリ此命

人身ノ自由

三百五十六
三百五十七

假捕縛

令書ハ拘留ノ際又ハ遅クトモ翌日責罰者ニ送達サレサルヘカ
 ラス假リニ一己人ノ身体ヲ捕縛スルコトハ其人カ犯罪ヲ企ツ
 ルノ暇ナク之ヲ實行シテ逃亡スルノ暇モナク若シ時アレバ犯
 罪ヲ實行シ或ハ實行ノ後逃亡スルコトヲ計畫スルノ疑アルト
 キハ裁判官ノ命令書ナクシテ假リニ之ヲ捕縛スルコトヲ得ヘ
 シ然レ此ノ場合ニ於テハ遅クモ翌日ニ解放スルカ若クハ管轄
 ノ裁判所ノ檢事ニ送附スヘキ爲メ當日必要ナル手續ヲ爲サ
 ルヘカラス其他仍ホ人身保護ノ爲メニ警察ノ公力ヲ用ユルコ
 トヲ得

此法律ハ以前ノ有様ニ比較スルトキハ著ルシキ進歩ヲナシタ
 リ何トナレハ拘留ヲ最終手續ニ實行スルハ裁判官ノ命令ノミ
 ニ依リ假拘留ノ場合ニハ就縛者ハ直ニ裁判所ノ處分ヲ受クヘ
 キノ規定ヲ設ケタレハナリ然レ此法律ノ欠點トスル處ハ官吏

カ違法ニ假リニ拘留處分ヲ爲シタルルノ責任及權利毀損ニ伴
 フノ罰則ヲ規定セサルニアリ「フランクフルト」ノ公權法ニ掲ク
 ルカ如キ違法拘留處分ノ場合ニ政府カ被害者ニ對シ一般ニ賠
 償ノ義務ヲ保證負擔スルコトハ到底行ハレサル處ナリ唯違法
 ノ拘留處分ノ爲メ一私人ニ對スルカ如ク官廳及ヒ其行政官吏
 ニ對シ被害者カ損害賠償ノ直接ノ私訴ヲ提起シ陪審官ニ由テ
 損害賠償ノ判決ヲ下スハ現時英國ニ行ハル、處ニシテ獨逸ノ
 人身保護律ニ對シ充分ナル保證ヲ與フルモノト云フヘシ
 我國憲法ニ依レハ第二十三條ニ於テ日本臣民ハ法律ニ依ルニ
 アラスシテ逮捕監禁審問處罰ヲ享クルコトナシトアリ是ニ由
 テ人身ノ自由ヲ保證シ逮捕監禁審問ハ法律規定ノ場合ニ限り
 其餘項ニ從ヒ之ヲ行フコトヲ得ヘク而シテ又法律ノ正條ニ依
 ルニアラスシテ何等ノ所爲ニ對シテモ處罰スルコトヲ得ス是

三百五十八
三百五十九

住居文書ノ保
護

ノ如クニシテ然後ニ人身ノ自由始メテ安全ナルコトヲ得ヘキ
 ナリ

第三、住居文書ノ保護 住居ハ侵スヘカラサルモノナリ住居
 ニ侵入スルコト家宅搜索ヲナス、并ニ書簡文書ヲ差押ユルコ
 トハ法律ニ定ムル場合ニ於テ一定ノ形式ニ從ヒ之ヲ行フコト
 ヲ得

獨逸ニ於テハ英國ノ如ク中世ニハ住居權固ク保證サレタリシ
 モ前世紀ニ至リテ專制無法ナル政府ノ爲メニ破壊サレタリ故
 ニ現時新憲法ノ自然ノ傾向ハ人身安固及ヒ家族生活ノ貴重ナ
 ルコトヲ公權的ニ保證スルニアリ普國憲法第六條ノ施行規則
 トシテ發布サレタル一千八百五十年二月十二日ノ法律第二編
 ニヨレハ職權上ノ理由又ハ法律上委任サレタル官廳囑託ノ外
 ハ住居者ノ意ニ反シテ家屋ニ侵入スルコトヲ許サス(第七章)夜

間住居ニ侵入スルコトヲ禁ス家宅搜索ハ唯裁判官或ハ法廷警察若クハ警察使丁或ハ地方廳或ハ警察署ノ立合ニ依リ法律ニ定ムル場合ニ於テ形式ニ從テノミ之ヲ行フコトヲ得而シテ可成丈ハ責問者或ハ家族ヲ立會ハシメテ行ハザルベカラズ(第十章)然レ夜中家宅搜索ノ禁アルニモ拘ハラズ急迫止ムヲ得ザルノ理由アルトキハ例外アリ終リニ行政警察官廳ノ隨意ノ認定權ニ放任シタルハ危急ノ場合ニハ本人ノ所有スル書簡文書ノ差押ヲ爲スコトヲ得ルナリ(リヨン子)氏(スタイン)氏ノ書ニ依レバ差押ハ或場合ニ於テハ警察力ヲ以テ之ヲ行ヒ其開封ハ法廷ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得トアリ之ニ反シテ憲法第三十三條ニ依レバ郵便ニ託シタル書簡ノ秘密ハ警察官廳ノ侵スベカラザル處ニシテ唯刑事裁判所探索ノ時及ビ戰爭ノ場合ニノミ立法者ハ例外ノ場合ヲ規定スルコトヲ得ベシ一千六百六十

三百六十一

七年十一月二日ノ聯邦法律第五十八章ニ依レバ信書ノ秘密ハ侵スベカラザルモノトアリ故ニ刑事裁判所ノ探索ノ時及ビ破産又ハ民事訴訟手續ノ場合ニ必要ナル例外ヲ設クルコトハ聯邦法律ヲ以テ確定スベキモノニシテ聯邦法律ノ發布アル迄ハ例外ノ場合ハ總テ州法ニ由テ規定スルモノトス故ニ普國ニ於テハ憲法第三十三條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ我帝國憲法ハ第二十二條ニ於テ人民ノ住居移轉制限ノ事ハ立法ノ手續ヲ以テ之ヲ定メ行政命令ヲ以テ之ヲ犯カスベカラザルコトヲ示ス故ニ人民ノ住居及ビ自由ニ關スル事ハ立法者ガ法律ヲ以テ確定制限ヲ設クルモノニシテ隨意ニ行政命令ヲ以テ之ヲ處分シ能ハザルモノトナスナリ茲ニ所謂住居トハ本籍ヲ定メ又ハ假リニ寄留ヲナシ且帝國範圍内ニ隨意ニ住處ヲ定メ得ルノ權利ナリ外國ニ移住スルモ法律ノ範圍内ニ於テ本國

ニ住處ヲ定ムレバ毫モ居住ノ自由タルヲ妨グズ此ノ如クナレバ地球上如何ナル邦國ニモ隨意ニ轉居スルコトヲ得ルノ實アリト云フベシ又第二十六條ニ於テ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシトノ規定アリ一ニ信書ト稱スルハ專ラ他人ニ托シテ往復スル總テノ文書ヲ指スナリ而シテ其文書ハ封鎖セラレサレハ秘密ノ保護ヲ享ケス一個人カ自ラ携帯スル信書又ハ其住處ニ在ル信書ハ此條項ニ依ラスシテ他ノ條項ニ依リテ保護ヲ受クルモノトス

特別裁判ヲ許サザル事

第四 特別裁判ヲ許サ、ル事 普國憲法第七條ノ明文ニヨレハ何人モ法律上定メラレタル裁判官ノ判決ヲ受クルコトヲ得特別裁判所及ヒ臨時裁判委員ヲ設クルコトヲ許サストアリ以テ一方ニ於テ各人カ法定裁判官ノ判決ヲ受クルノ權利ヲ保有シ一方ニ於テハ行政官カ權力ヲ濫用シテ隨意ニ審問判決ヲ下

三百六十三
三百六十二

スコトヲ禁ス是司法行政ノ區別ヲ明カニシテ行政權ヲシテ司法權ノ範圍ヲ侵サ、ラシメ行政司法ノ二權ヲシテ互ヒニ獨立セシメントスルニアリ

帝國憲法第二十四條ニ於テ日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシト規定セリ即チ法律ヲ以テ裁判所ヲ構成シ勅令ヲ以テセサルハ啻ニ裁判官ヲシテ獨立セシムルノミナラス人民カ正當ナル裁判ヲ受クルノ權ヲ保證シタルモノナリ故ニ法律ヲ以テ定メサル裁判所ノ裁判ハ總テ其効力ナク又特別例外ノ裁判所ヲ行政權ヲ以テ設ケ特別ノ裁判ヲ爲スコトヲ許サス此條ノ趣意ハ全ク行政權ヲ以テ司法權ヲ侵サ、ルニアリ隨テ其裏面ヨリ一個人ノ權利ヲ鞏固ニスルコトヲ得ルナリ

第五 刑罰ハ法律ニ依テノミ執行スルヲ得ル 普國憲法第

刑罰ハ法律ニ依テノミ執行スルヲ得ルコト

八條ノ明文ナリ獨逸刑法第二章ニヨレハ行爲ハ其實行ノ前ニ法律ニ罰條アリシトキノミ責罰ヲ蒙ルノミ羅馬法律家ノ言ニ法律アラサレハ罰ナシトハ宜ナル哉是ニ由テ見レハ勅令又ハ法律ニ基カザル官廳若クハ一人ノ命令ニ由テ刑罰ヲ執行スルヲ得ス且刑罰ヲ適用スルニ當リテモ法律ニ於テ認定セル刑罰ノ種類ノミ之ヲ用ルコトヲ得テ舊時行ハレタル民法上ノ死亡及財産沒收等ノ刑罰ノ如キハ憲法々典第十條ニ由テ削除サレタリ此ノ如ク可成臣民ノ權利ヲ保護シ違法ノ處分ナカランコトヲ期スルモノナリ

帝國憲法第二十三條ニ依レハ日本臣民ハ法律ニ依ルニアラスシテ處罰ヲ受クルコトナシトアリ凡ソ處罰ノ法律ノ正條ニ依ラサルモノハ裁判ノ効ナキモノトス故ニ總テ法律ニ依ラサル手續ニ於テハ臣民ハ處罰ヲ受クルコトナク官府ハ之ヲ蒙スナ

三百六十四

所有權ヲ奪ハレザルコト

ルナリ之レ皆務メテ周密ノ意ヲ致シテ臣民ノ權利ヲ保護スル所以ニシテ而シテ拷問及其ノ他中古ノ斷獄ハ歷史上既往ノ事蹟トシテ復現時ニ再生スルコトヲ得セシメス本條更ニ之ヲ保證シ以テ人身ノ自由ヲシテ安固ノ地ニ入ラシメタリ

第六 所有權ヲ奪ハレサルコト 立憲政体ノ國ニ於テハ獨リ人ノ身體上ノミナラス亦タ物件上ノ權利範圍チ一ノ公權トシテ之ヲ保護スルモノナリ茲ニ所有權ヲ保護スルヲ以テ公權ノ一種類トナスハ物件上ノ權利ヲ認メタルニ外ナラサルナリ

覆載ノ間法律上人類ニ隸屬スル總テノ物ハ人間ノ財産又ハ廣義ノ所有權ヲ形造ルモノナリ(普魯西民法第一卷第八編第一章及奧太利法典第三百五十三條參照獨逸ニ於テハ以前ヨリ國家ハ財産權ノ保護ヲ以テ最モ緊要ナル職務ノ一ト看做セリ然レ近時初メテ國家カ此ノ如キ義務ヲ明ニ發言スヘキ慣例トナレ

普魯西憲法

リ即チ最初普魯西民法緒論第七十六章ニ於テ之ヲ記載シ新獨逸
 憲法等ニ於テ之ヲ摸倣シタルカ如シ
 普魯西憲法第九條ニ曰ク所有權ハ侵スヘカラルモノナリトア
 リ故ニ唯公益ノ爲メニ前ニ賠償スルカ又ハ切迫スルトキハ少
 クトモ假リニ賠償ヲ與ヘ法律ノ規定ニ從ヒテ其權利ヲ奪フカ
 或ハ制限スルコトヲ得ルノミナリト解釋ス
 所有權ノ公權上右ニ述ヘタル如ク侵スヘカラサルコトハ二様
 ノ意味ヲ有セリ一方ニ於テ國家ハ所有權ヲ他人ノ違法ナル侵
 害ニ對シ法律及ヒ裁判所ヲ設置シテ之ヲ保護シ一方ニ於テハ
 同時ニ又自身ニ對シ即チ其隸屬スル機關及ヒ官廳ニ向テ人民
 ノ所有權内ニ總テ隨意ナル侵害ヲナササル義務ヲ負ハシム唯
 例外トシテ公益ノ爲メニ止ムコトヲ得サルヲ示ス場合ニ於テ
 ハ國家ハ其人民ノ財産ノ幾分ヲ收用スヘキ權利アルモノト看

土地所有權ニ
關スル法律上
ノ規定

做スモノニシテ國家ハ其收用セル財産物ノ代ハリニ相當ノ賠
 償ヲ給スル義務アルカ故ニ人民ノ財産權全体ニ對シテハ損害
 ナ及ホシタルコトナキナリ近時各地交通ノ發達著ルシク國家
 的并ニ平民生活カ一般有益ナル土木ヲ起スニ付キ非常急迫ナ
 ル需要アルニ際シ各國皆ナ大ニ土地收用權ノ必要ヲ感シ而シ
 テ開明國ニ於テハ之ヲ認ムルモノナリ
 國家及ヒ人民ノ自由ニ對シ特別ニ緊要ナル事ハ土地所有權ニ
 關ル法律上ノ規定ナリ故ニ之ニ關スル最モ緊要ナル原則ヲ適
 法ニ所謂公權ノ範圍内ニ入レタル所以ナリトス舊獨逸帝國ノ
 時代ニハ土地所有權ハ鄉村法及ヒ共同殖産ニヨリ中古時代ニ
 ハ封建制及ヒ領主權ニヨリテ拮据サレシモ近時ノ發達ハ法律
 上并ニ國民經濟上ノ理由等ニヨリ土地ニ對シ純然タル所有權
 ノ意義ヲ確定スルコトニ傾向スルヲ見ル即チ普魯西ニ於テハ

先ツ農民ノ所有スル土地ニ對シ前世紀ヨリ實行セル負擔ヲ除却スルヲ第一トナセリ之ニ關シテ許多ノ法律勅令命令規則ヲ發布シ皆土地所有權ニ賦課セル種々ノ負擔ヲ除却シ權利者ニ對シ賠償ノ法ヲ定メタリ又憲法第四十二條ニ於テ土地所有權ハ一般ノ立法處分ノ外他ノ制限ヲ享クルヲナク自由ニ處分ヲ爲スヲ得土地所有者ノ分割及ヒ土地負擔ノ除却ニ付テハ保護サル、トノ規定アリシモ一千八百五十六年四月二十四日ノ法律ニ由リテ復ヒ廢セラレタリ然レ其法律ヲ基礎トスル緊要ナル各州法ノ規定アリ殊ニ一千八百五十年三月二日ノ大法土地負擔ノ除却及ヒ領主農民ノ關係ニ付キ規定スルハ現時仍ホ効力ヲ有セリ最初普魯西國立法上ニ土地所有權ヲ自由ニ處分スルコト土地所有權ノ分割他人所有ノ土地ニ銃獵權一千八百四十八年十月三十一日ノ法律及ヒ一千八百五十年三月二日ノ

三百六十九

土地貸與組合

法律第二章第三章ニ列舉セル權利(此内ニハ封建領主的ノ領地ノ事ヲ規定セリ)ヲ無報酬ニ除却スルコト等ノ規定ヲ認容セリ總テ其他ノ土地負擔及ヒ領地權ハ除却スヘキ旨ヲ告ケタリ一千八百五十年三月二日ノ法律ハ以上述ヘタル外仍ホ所謂分割所有權ヲ規定スルコトヲ將來ニ向テ廢セシメタリ即チ第九十一章ニ於テ命令セルカ如シ(條文畧之)以上述ヘタルカ如クニシテ土地所有權ノ完全自由ナルヲテ回復シ保持スルコトヲ普魯西國法ノ原則ニ舉グルニ至レリ土地貸與組合ハ普魯西ニ於テハ一千八百五十二年六月五日ノ法律ノ規定アリ土地貸與主ノ所有權ハ普魯國ニアルモノナレバ土地世襲貸與ノ外ハ一千八百五十年三月二日ノ法律ニ依テ廢セラレ一族世襲財產ニ關シテハ憲法發布以前ニ存スル舊法ヲ適用シ新ニ世襲財產ヲ建ルハ法律規定ニ依テ之ヲ許ス

國家ハ既ニ得有セル財産ヲ總テ不法ノ侵害ニ向テ保護スルノ
 ミナラズ亦タ其人民ニ對シ隨意ニ選ム處ニ委シ種々經濟的ノ
 働作ニ由テ財産ヲ獲得シ又ハ已ニ獲得セルモノヲ増殖スベキ
 爲メ法律上ノ便宜ヲ與フルヲ保證スルモノナリ許多ノ獨逸憲
 法法典例セバ「ユルテンベルグ」ヘセン、ダルムスト「索遜王國」ノ憲
 法等ニ見ユル原則トシテ諸國民ハ生計ヲ營ムノ地位及ビ職業
 ナ選ブノ自由ハ制限セザルベカラザル事ハ普魯西憲法々典ニ
 於テ全ク採用サレザル處ナリ然レドモ久シク立法上ニ於テ承
 認ノ傾キヲ生ジ居レリ普魯西ニ於テハ最初已ニ一千八百十年
 ヨリ職業自由ノ原則公告サレ全ク施行セラ、ニ至レリ一千八
 百六十九年六月廿一日北獨逸聯邦職業條例ニ依レバ左ノ原則
 ナ發表セリ

營業條例ノ原

職業ヲ營ムコトハ此法律ニ依テ例外或ハ制限ヲ規定シ其禁

ゼザル限リニ於テ何人モ之ヲ營ムヲ得

總テ特別ナル營業權及ビ脅迫法放逐法等皆廢除セラル、同時ニ
 種々ノ職業ヲ營ムコトヲ許シ職工ガ自身ニ制作セル物品ヲ販
 賣スルコトヲ制限スルヲ許サズ、凡ソ獨立職業ヲ營マント欲ス
 ル者ハ普通ノ規則トシテ唯其趣キヲ官廳ニ通知スベキ義務ヲ
 有スルノミナリ唯其營業ノ取締ヲ爲サ、ルトキハ公共ノ安寧
 ニ危害ヲ生ズベキ一ニノ職業ニ關シテハ警察ノ許可ヲ第一ノ
 手續トシテ受ケザルベカラズ、營業ニ關シテ市街及ビ村里ヲ區
 別スルコトハ廢セラレタリ
 此ノ如クニシテ獨逸帝國全體ニ對シ可出來の一樣ナル自由ヲ
 與フルノ原則ニ基キテ職業法ヲ創定シ職業制度ヲ最モ廣濶ナ
 ル範圍内ニ規定スルヲ以テ帝國ノ職務トナセリ而シテ斯ク完全
 ナル自由ヲ享有スルト共ニ職業自由ノ原則アルニヨリ各職業

上労働社會ニ對シテ最モ緊要ナル公權ヲ生スルモノトス
 又國民ノ智識進歩シ開化ノ程度上進シ漸ク著述家并ニ技術家
 ノ精神的労働ニヨリ國民生計上ニ普及シテ利益ヲ收得スル
 大ナレハ從テ國家ハ此ノ如キ人民ノ階級ニ對シ自己ノ精神的
 職業ニ伴フ物質上ノ利益ヲ法律上保護スヘキ義務アルコトヲ
 感スルモノトス此ノ如キ働作ニ依テ得ヘキ實質上ノ利益ヲ法
 理上未タ精神上ハ所有權トシテ説明スルコト能ハサレハ權利
 保護ノ目的ハ仍ホ此ノ如クニシテ達シ得ヘキナリ即チ著作又
 ハ機械ノ力ヲ假リテ多額製作スヘキ物品ノ權利ヲ專ラ製作者
 ノ享有ニ歸セシメ總テ製造人ノ許可ナクシテ其機械力ヲ假リ
 テ多額ノ製作ヲ企ツレハ擬造ノ犯行トシテ之ヲ禁止シ法律ニ
 違背シテ出版シタル者ハ損害賠償又ハ或場合ニハ刑罰ヲ蒙ル
 ヘキモノトス之ニ關スル最近ノ規定ハ一千八百七十年六月十

三百七十三

我憲法所有權ノ規定

一日發市ノ著書圖書樂譜脚本出版權ニ關スル聯邦法律中ニ見
 ヌ
 以上論述シ來リタルカ如ク國民ノ財產權ハ其細密ナル分類ニ
 至ル迄モ帝國并ニ各州憲法ノ規定ト許多ノ法律ヲ以テ充分廣
 ク保護セラレタルモノトス
 我國憲法第二十七條ニ日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコト
 ナシトノ規定アリ所有權ハ法律ノ定メタル場合ヲ除キ公權ヲ
 以テ制限シ得ザルトノ意味ナリ法律ニ特定シタル場合ニハ公
 益保護上公權ヲ以テ所有權ヲ制限スルコトヲ得ヘシ抑モ所有
 權トハ元來私權ニシテ公權ト其種類ヲ異ニセルモノナリ私權
 ハ私法上ノ權利ニシテ私法ノ規定ニヨリテ享有スルコトヲ得
 ルモノナリ公權ハ公法上ノ權利ニシテ公法ノ規定ニヨリテ享
 有スルコトヲ得ルモノナリ而シテ私權ナル所有權ヲ公權ノ一

二二三

ニ列シテ公法中ニ於テ論スル所以ノモノハ公益上政府カ一私人ノ所有權ヲ制限スルヲ以テ勢國法上ノ理論ニ關係ヲ及ホシ亦タ私權ヲ有スルト同時ニ所有權カ公權ノ性質ヲ帶ヒテ直接ニ國權ニ對シ享有スルヲ得ルノ觀アルヲ以テノ故ナリ此ノ如ク所有權ハ公權私權ノ二様ノ意義ヲ有スレトモ固ト公權ト私權トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノタルコトヲ念ルヘカラス所有權ハ私權ニシテ一個人カ完全ニ之ヲ享有シ隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルモノナレトモ所有權アルノ故ヲ以テ公權ノ作用ヲ拒絶シタルモノニアラス公益保護上公權ノ作用ヲ以テ一私人ノ所有權ヲ制限シ其効力處分ヲ止ムルコトアリ然レ政府カ便宜上ノ處分ナルヲ以テ之ヲ適用スル場合ハ特例トシテ別ニ法律上ノ規定ヲ許ササルヘカラス故ニ同一ノ物件上ニ完全ナル所有ノ私權ト完全ナル公權トノ二者カ共ニ存スル

所有權ハ公權
ヲ左右スルヲ
得

三百七十四
三百七十五

コトヲ得ヘシ其双方ノ作用ヲ定ムルハ是レ本條ノ趣旨ナリ所有權ハ一個人ノ自由ト共ニ侵スヘカラスナルモノナリ茲ニ侵スヘカラスト言フハ即チ私權ヲ侵スヘカラスト云フノ意ナリ然レ私權ヲ侵スヘカラスト云フハ一私人間ノ關係ニ於テ稱スル事ナレハ一私人ハ相互ヒニ他人ノ私權寧ロ所有權ノ不羈自由ナル處分ニ對シテ制限ヲ加フル能ハス所有權ハ國家公權ノ下ニ存立スルモノナリ故ニ所有權ハ國權ニ隸屬シ法律ノ制限ヲ受ケサルヘカラス所有權ハ固ヨリ侵スヘカラスナルノ權ニシテ私法上一般ニ保護ヲ受クルモノナレトモ無限ノ權利ニアラサルナリ法律ノ指定スル場合ニハ公權ヲ以テ之ヲ制限シ或ハ所有權ヲ移轉スルコトヲ妨グル事アリ而シテ一個人ノ所有ハ各自ノ身体ト同ク國權ニ對シ隸屬ノ義務ヲ負フモノナルコトヲ認知スルニ足ルモノナリ蓋所有權ハ私法上ノ權利ニシテ全

國統治ノ最高權ノ專ラ公法ニ屬スルモノト牴觸スル處アルニ
 アラサルナリ故ニ所有權ハ一般ニ私權トシテ一個人之ヲ享有
 スルコトヲ得ルノミナラス公權トシテ國家ニ對シ行政處分ノ
 制限ヲ享クルモノナリ其國法上之ヲ保護スルヲ以テ公權ノ一
 種トナスナリ

以上ノ如キ事柄ヲ稱シテ公權ト云フ之ヲ貴重ナル權利ト名ケ
 タル所以ハ法理上解スヘカラサル事ナリ而シテ此等ノ規定ヲ
 詳論スルハ行政法ノ部類ニ屬シテ憲法ニ於テ説ク處ニアラス
 憲法中公權ノ事ヲ記載スルノ主意ハ行政ノ原則ヲ定メタルモ
 ノナルカ故ニ行政法律ト名クヘキ種類ノ法律ト相伴ナヒ制定
 セラルハアリテ始メテ其意義ヲ全フスルモノナリ此條ニ掲ケ
 タル處ヲ以テ直チニ臣民ノ權利義務ノ法力ヲ引起スニ足レリ
 トスルノ解釋ハ誤レリ此規定ハ則チ立法官及ヒ行政官ニ對ス

臣民ノ政權

政權ノ定義

ルノ命令ナリ法律上ヨリ論ズレバ命令ノ主的ト爲ス處ハ臣民
 ニ在ラスシテ法令ヲ發シ又ハ行政處分ヲ爲ス者ニアリ

第四節 臣民ノ政權

以上論述セル臣民ノ權利ノ外ニ政權ボリチツエ、レヒテト稱ス
 ルモノアリ而シテ此二ノ權利ハ互ヒニ親密ナル關係ヲ有スル
 モノト看做シ政權ヲ以テ臣民ノ權利ノ一部ナリトスル學者ア
 リ即チ臣民權ヲ有スル者ハ之ニ伴フテ政權ヲ有スヘキモノナ
 リトス政權トハ何ソヤ政權トハ他ニアラス國民政治上享有ス
 ルヲ得ルノ權利ニシテ所謂參政權ヲ初メトシテ許多ノ政治ニ
 關スルノ權利ナリ例ハ國會議員ノ選舉權及ヒ被選舉權司法及
 ヒ行政ニ參與スルノ權等ナリ此等ハ權利ト稱スヘキモノニア
 ラサルノミナラス臣民權ニ伴フテ必ス享有シ得ヘキ者ニアラ
 ス又臣民權ノ法律上ノ結果ニモアラサルナリ何トナレハ臣民

タル者ハ盡ク皆政權ヲ有セサレハナリ然ラハ政權ノ要件トシテ被選舉權ヲ有スルニハ一國ノ臣民籍アルノミヲ以テ足レリトセス其他仍ホ社會ニ對スルノ地位學識經驗財產年齡等種々ノ資格ヲ具備セサルヘカテサルナリ故ニ政權ハ臣民權ニ伴フテ密着ノ關係ヲ有スルモノニアラサルヤ明ナリ之レ政權ハ臣民權ノ法律上ノ結果ニアラスト云フ所以ナリ

シユルツエ氏ノ説

國法學家シユルツエ氏ハ政權ヲ有スル民ト之ヲ有セサル民トヲ區別シテ政權ヲ有スル民ヲ完全ナル臣民ト稱セリ從來ノ教科書ニハ自動的臣民及ヒ他動的臣民ノ區別ヲ爲シタリト雖モ畢竟認見タルコトヲ免レス何トナレハ茲ニ自動的トハ自己獨立ノ權力ヲ有シ一般ニ臣民タルノ資格ニ伴フ處ノ總テノ權利ヲ有スルモノニシテ各權利中ノ公權トシテ政權ヲ有シ所謂完全ナル臣民ニシテ他權力者ノ制肘ヲ受ケサルノ意味ニシテ茲

三百七十八
三百七十九

ニ他動的トハ自己獨立ノ權力ヲ有セスシテ一般ニ臣民タルノ資格ニ伴フ處ノ總テノ權利ヲ有スレトモ公權トシテ政權ヲ有スルコトナク所謂完全ナラサル臣民ニシテ他權力者寧ロ完全ナル臣民ヨリ制肘ヲ受クルヲ免レス畢竟他人ヨリ働キ掛ケラルノ意味アルカ故ナリ然レトモ方今苟モ臣民タル者ハ完全ナル公權ヲ有セサルモ幾分直接間接ニ政治ニ干與スルノ權利ヲ享有スルヲ以テ此ノ如キ臣民ヲ他動的トナスハ不當ニシテ從テ自動的臣民他動的臣民ノ區別ヲ爲スハ近時進歩セル學理ニ照シテ認見ナルコト明白トナレリ

各種ノ政權ハ各其必要トスル條件ヲ異ニスルカ故ニ國會議員選舉權ヲ有スル者ニシテ其他ノ政權ヲ有セサルモノアリ故ニ政權ヲ有スル者ト他ノ者トヲ區別スルコトハ其必要ヲ見スシテ且亦タ事實ニ適合セサルナリ故ニ外國人ニシテ他ノ臣民權

ナ有スルモ政權ヲ有セサルモノヲ區別スルカ如キハ箇ニ成法上ノ觀察ニ過キスシテ實際ニ於テハ内外國人ノ間ニ大差ヲ見サルナリ

法理學上ノ難問

臣民ノ權利ヲ論シ終ルニ臨ミ仍ホ一ノ法理學上ノ難問アリ臣民ハ國家ニ對シテ權利ヲ有スベキモノニアラズ如何トナレハ國家ハ法律ノ淵源ニシテ臣民ハ法律ノ爲メニ制限セラル、ニ當リ一定ノ區域ナシ若シ國家ニ對シテ權利アリトセハ國家カ侵シ得サル處ロノ權利ナカルヘカラス併シ國家カ法律ヲ制定シテ臣民ノ所謂權利ヲ侵ストナセハ權利ト思ヒシモノモ權利トナラザルニ至ル私法上ニテ權利ト稱スルハ他人之ヲ害シタルトキニハ國家ノ力ヲ以テ之ヲ保護シ得ルモノナリ國家ノ力ヲ以テ之ヲ保護シ得サルモノナレハ之ヲ權利ト稱スヘカラス故ニ臣民ノ權利トハ國家以外ニ對シテハ權利ナルモ國家自身

ニ對シテハ權利ニアラス語ヲ換エテ之ヲ言ヘバ臣民ノ權利トハ私法上ノ權利ト全一ノ關係ニアラストナス之レ目下行ハル、處ノ説ナリ此説ニヨレハ臣民ノ權利トハ法律アルカ爲メニ存在シ法律ノ變更セラレザル間ハ行政官カ之ニ侵シ入ルヲ得サル自由ノ區域ヲ云フ故ニ普通ノ私法上ノ權利トハ其効力ヲ全ク異ニセルナリ畢竟行政官ニ對シテ臣民ニ向テ處分ヲ爲ス場合ニ規定ヲ與ヘタルモノニ別段ニ臣民カ國家ニ對シテ權利ヲ有スルトノ意味ニアラサルナリ何トナレハ臣民カ國家ニ對シテ權利ヲ有スルトノ事實ハ元來解シ得ヘカラサルヲ以テナリ

第五節 臣民ノ階級

社會組合体ノ成立ヲ見ルニ一巳人カ社會全体ニ對スル關係ノ外ニ於テ社會ノ一部ハ他ノ一部ニ對シテ上下ノ關係整然タル秩序ヲ有シテ二者ノ間ニ特別ナル標目ヲ以テ之レヲ區畫スル

臣民ノ階級

國法學

貴族ト平民ノ別

モノナリ之レ一國內ニ社會ヲ組織セル人民中ニ門地階級ヲ生
スル所以ナリトス即チ國民ハ主權者又タハ社會團體ノ統御者
ニ對シ服從義務ヲ有シ上下ノ關係ヲ保チテ殊別ナル階級ヲ形
造リ而シテ均シク國民ノ階級中ニ殊別ナル關係ヲ生スルモノ
アリ何ソヤ所謂貴族及ヒ平民ノ區別之レナリ貴族トハ平民ヲ
除キテ別段ナル階級ヲ造リ主權者ニ次キテ一國內ニ優等ナル
權力ヲ有スルモノトス平民トハ貴族ニ對スルノ稱號ニシテ一
國內ニ最多數ノ權力ヲ有スルモノナリ其重要ナル部分ハ職業
者ノ多數ヲ占ムルモノナリ

族藉階級ノ大體

次ニ族藉階級ノ大體ノ意義ヲ述ヘン
凡ソ人民カ較々野蠻ノ階級ヲ脱シテ之ヲ文明ノ域ニ進歩上達
スルニ至ルハ直チニ政治統御上分業上物件所持上ニヨリ種
々外部生計上ノ關係ノ爲メ亦タ種々ノ慣習慣行風俗ヲ生スル

三百八十二
三百八十三

國民階級ノ人身上ノ差別ヲ建ルモノナリ此ノ如クニシテ慣習
ノ法律ノ下ニ立チテ族藉階級ハ生計ノ摸形ニ於テ確立シ固定
スルモノトナリテ形造セラル、ニヨリ是ニ於テ國民中ニ族藉
階級ノ別ヲ生ス之ヲ保護シ繼承スルニヨリテ此ノ如キ人身上
ノ差別ハ直チニ其子孫ニ係ハリ從テ確定鞏固ナルヲ得タリ
其此ノ如キ差違ハ未タ全ク法理上ノ關係ニアラスシテ社會上
及ヒ國民經濟上ノ關係法律上ヨリ國民ノ階級族藉ノ別生シタ
ルニアラスシテ廣ク社會上ノ理由ニ基キ歷史上ノ發達ニヨル
モノナリ又國民經濟上ノ理由ニヨリ富ノ程度ニ從テ貧富ノ別
ヲ生シ貴賤ノ懸隔ヲナシ仍ホ種々經濟的ノ原因アルカ爲メ階
級ノ發達セル歴史アルモノトス而シテ此等ノモノハ皆法律上
ノ關係ヲ以テ説明シ得ヘカラサルモノナリ故ニ社會上及ヒ國
民經濟上ノ關係ヲ以テ之ヲ知ル所以ナリ

然レトモ先ツ此ノ如キ範粹ニ事實上ノ差別カ孰レノ時孰レノ人民ニアリテモ成立チテ仍ホ存生スルカ如クニシテ法律ヨリ觀察サレ慣習法又ハ成文法ニ因テ法律上ノ規則ニ變更サルハ片ハ始メテ族藉階級カ法規トナルノ端緒ナリトス故ニ其以前ニアリテハ單ニ慣習上ノ差別タルニ過キスシテ未タ法律タルノ性質ヲ有スル能ハサルモノナリ然ルトキハ未タ法律上認定セル族藉階級ナリト云フヲ能ハス是國民慣習上事實上ノ族藉階級ナリト云フ所以ナリ然レトモ此ノ如キ慣習ハ終始其有様チ一ニシ永ク變更セサルノ性質ヲ有スルモノトス

此ノ如キ作用ハ格段ニ若モ固有起源ノ職業上ノ族藉階級カ代々相傳ヘラル、ニ至ルトキニ實行サル、モノナリ故ニ各人民ノ職業上ノ地位カ社會ニ對シテ確立シ世々其職業ノ地位ヲ以テ生計ノ基本トナストキハ職業上ノ地位ニヨツテ族藉階級ヲ

三百八十四

「カステン」

形造リ慣習トナリテ一定變スヘカラサルモノトナルナリ

此ノ如クニシテ東洋諸國印度支那日本等ニハ「カステン」ト名クル臣民ノ族藉階級ナルモノ起リ印度ニ於テハ其歴史ニモ散見セルカ如ク僧侶軍人農工商奴隸ノ各階級ヲ生シ我國ニ於テモ士農工商ノ制アリタリ北亞弗利加埃土國ニモ階級ノ制アリ又歐羅巴ニ於テハ中世ニ隸屬ノ階級ナルモノ發達シ恰モ東洋諸國ニ於ケルカ如ク生レナカラ貴族ナルモノハ生涯貴族ノ階級ニ屬シ平民ノ家ニ生レタルモノハ貴族タルコトヲ得サルノ制ナリ之ヲ「ダブルツステンデ」ト稱ス

此「ダブルツステンデ」階級ノ制ハ殆ント近世歐羅巴諸國ニ於テハ一般ニナセルカ如ク立法權ノ力ニ依テ階級制ノ法理上ノ存在ヲ解除セシメタル處仍ホ法律ニ對シテ幾分カノ階級ノ差別カ意味ヲ有スルヲ以テ現存シ就中國法ニ對シテ公業上ノ階級

族階級ノ歴
史上ノ發達

(例セハ官吏裁判官士官ノ如シ)及ヒ私法ニ對シテ私業上ノ階級
 (例セハ商人農民其他ノ者等ノ如シ)ノニテ區別セリ茲ニ公業上
 ノ階級トハ「ニツフエントリヘ、ヘルウフスステンデ」私業上ノ階
 級トハ「プリワトベルウフスステンデ」ノ假譯語ナリトス
 族階級ノ歴史上ノ發達ヲ見ルニ歐羅巴ニ於テハ古代日耳曼
 人ノ制度中ニ國民ヲ分チテ自由ノ民(フライエン)及ヒ奴隸(ウン
 フライエン)ヲ區別セリ公民又ハ自由ノ人民トハ法律上充分ナ
 ル價值ヲ有セル人間ヲ云ヒ完全ナル臣民ノ權利義務ヲ有シ權
 利ノ主体トナルコトヲ得ルモノナリ奴隸ハ法律上物件ナリ其
 後中世ニ至リテハ土地ノ所有權ニ依テ社會臣民ノ階級ヲ分チ
 テ土地ヲ有スルモノヲ貴族ト名ケ土地ヲ有セサルモノヲ平民
 ト名ケ現今ノ社會ニ仍ホ國民ノ階級ヲ存スルモノハ土地所有
 權ノ關係ヨリ生シタル舊來ノ遺物ナリ方今ノ制度ニ於テ眞ニ

國民ノ階級ヲ區別シタルモノハ歐羅巴大陸諸國ノ國體ニ屬シ
 テ英國及ヒ日本ノ如キ國體ニハ發達シ適合シ得サルモノナリ
 從テ法律上特別ナル價值ヲ有スル如キ國民ノ階級ヲ區別セス
 獨逸國ニ於テハ國民ヲ分チテ高等貴族ト貴族ニアラサル者ト
 ナ區別セリ而シテ所謂高等貴族トハ「ウエストフールン」條約以
 後舊獨逸帝國ノ分裂シタル後ニ於テ一國ニ君主タリシモノナ
 リ彼輩ハ獨逸帝國ノ臣民タリト雖モ獨乙皇帝ト榮譽權ヲ同フ
 シテ皇室家法上同等ノ地位ヲ保テリ租稅ノ義務ヲ免セラレ徵
 兵ノ募集ニ應セス或ハ自己ノ領地内ニ於テ其地ニ居住スル農
 民ニ對シテ訴訟ヲ判決スル裁判權ヲ有セリ之ヲ領地管轄權「グ
 ーツヘルリヒカイト」ト稱ス而シテ世襲ニ貴族ノ爵ヲ受ケ獨逸
 皇帝及ヒ各國ノ君主ハ其餘ヲ奪フコトヲ得ス歐洲國際法上ニ
 於テハ獨逸各國ノ君主ト同等ノ地位ナルコトヲ認ム斯クノ如

キ種族ヲ指シテ貴族ト稱スルモノナリ他ノ稱號若クハ榮典ヲ有スル者ハ法律上之ヲ貴族ト認メサルナリ獨乙國ニ於テ此ノ如キ種族ノ今仍ホ存スルモノハ未タ中央集權ノ充分ナル發達ヲ爲サルカ爲ナリ中央集權ノ勢微弱ニシテ國家全体ノ權力ヲシテ中心ノ一點ニ傾向セシムルコト能ハサルカ爲ナリ畢竟未タ仍ホ舊來封建制度ノ餘習ヲ芟除セシムルコト能ハス各州ニ割據セル領主ノ權力ヲ剝奪スルコトヲ得スシテ依然全國ノ統御權力區々トナリテ一定ノ方向ニ進行セシムルコト難クシテ種族ノ制ヲ爲セル所以ナリトス併シ乍ラ方今獨逸ノ有識者ハ分權ノ非ヲ悟リテ成ルヘク中央集權ノ制度ニ變更セシメン
 一チ勤メ居レリ佛國及ヒ英國ニ於テハ夙ニ中央集權ノ勢ヲ成シテ國民ヲノ平等ノ方向ニ赴カシメタリ是レ獨逸ニ於ケルカ如キ種族ヲ區別スルニアラスシテ國權ノ下ニハ各人一様ニ服

三百八十九

從スヘキモノトナシ臣民ヲシテ君主ト同等ナル地位ヲ保チ榮譽權ヲ同フセシムル一チ許サス從テ特別ニ貴族ナル特權ヲ有スルモノニアラズ我國及ビ英佛ノ諸國ニ於テ貴族ト稱スルモノハ法律上別種ナル價值ヲ有スル人間ヲ云フニアラズ爵位ハ榮譽ヲ表彰スルモノニシテ勳賞及ビ其他ノ榮典ヲ賦與スルモノト同一ナル性質ヲ有スルモノナリ法律上貴族ナル身分ヲ標目トシテ一定ノ權利義務ヲ與フル一ハ之ヲ爲シ得ルナリ然レモ年齡職業又ハ財產ヲ標目トシテ一定ノ權利義務ヲ與フルト其法理ヲ同フシテ貴族タル事ハ一ノ榮典タルニ過ギズ主權者ハ何時ナリトモ其爵位ヲ奪ヒ又ハ何人ヲモ貴族ニ列スルコトヲ得而シテ貴族タルノ性質資格ニ伴フノ特權ニ付テハ實際上極メテ其區域ヲ狹小ニス是レ便宜上ヨリ之ヲ論スルモ特更ニ貴族ノ特權ヲ列記スルコトハ敢テ必要トナサレバナリ

帝國憲法義解第二章ヲ見ルニ左ノ文アリ

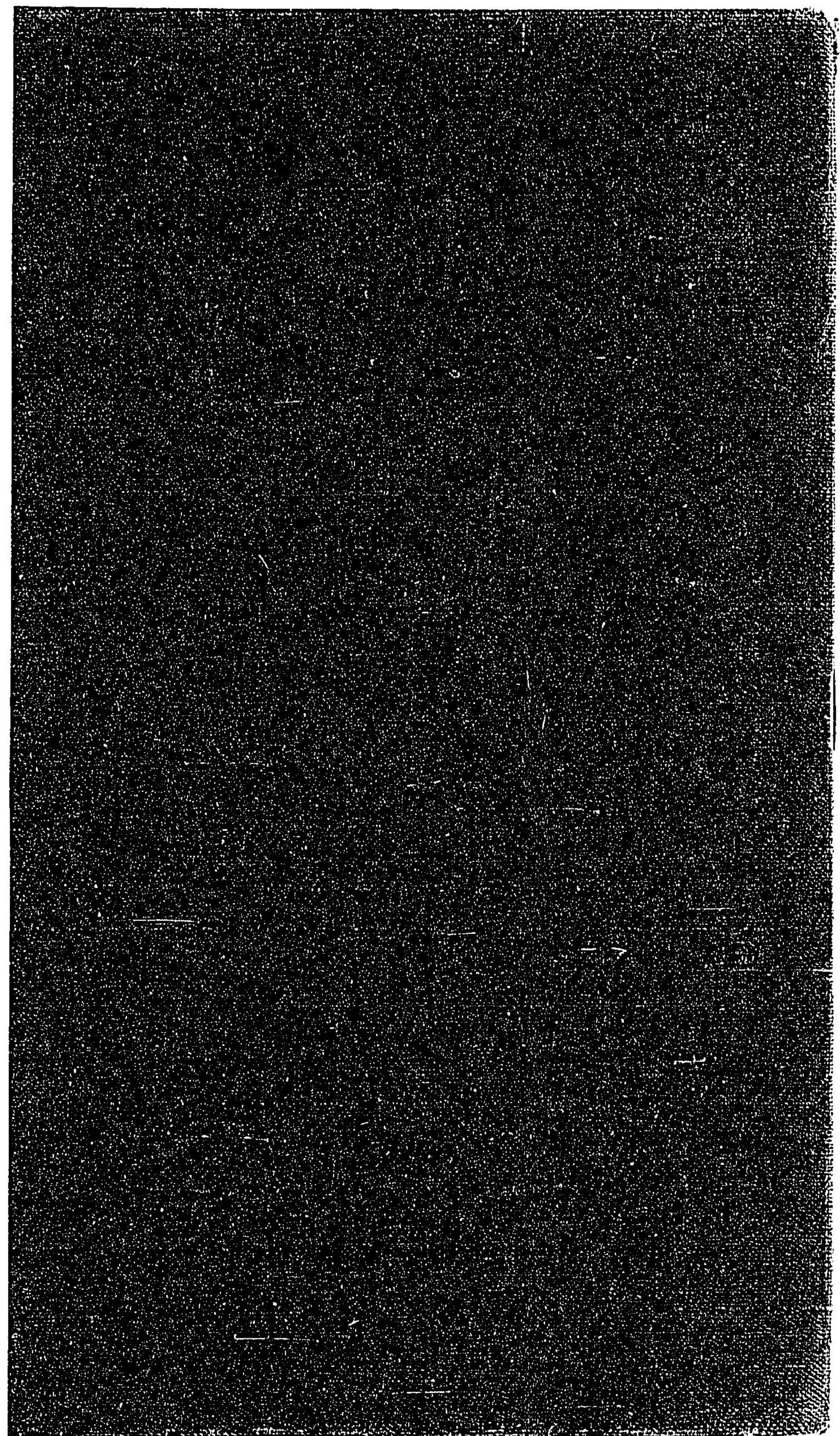
抑々中古武門ノ政士人ト平民トノ間ニ等級ヲ分チ甲者公權
ヲ專有シテ乙者預ラザルノミナラズ其ノ私權ヲ併セテ乙者
其ノ享有ヲ全クスルコト能ハズ公民ノ義是ニ於テ滅絶シテ
伸ヒザルニ近シ維新ノ後屢々大令ヲ發シ士族ノ特權ヲ廢シ
日本臣民タル者始メテ平等ニ其ノ權利ヲ有シ其ノ義務ヲ盡
スコトヲ得セシメタリ云々

其他十九條以下ノ各條ヲ見ルモ日本臣民中ニハ亦純然タル門
閥階級ナルモノヲ設ケズ全臣民皆平等ニ國權ノ下ニ服従スベ
キモノナルコトヲ知ルベシ眞ニ我國ノ一大美事トシテ以テ世
界萬國ニ向ヒ誇ルヲ得ベキ所ノ美事ナリトス是レ我が國法學
ヲ講ジテ此ニ其局ヲ結ブニ

國法學終

臨ニ特ニ此ノ事ヲ
片權登録

記スル所以ナリ



21

258

031550-000-9

21-258

国法学

橋爪 金三郎/著

[刊年不明]

BBE-0154

